

2 <農地法第3条第2項第2号関係> (権利を取得しようとする者が農業生産法人である場合のみ記載)
その法人の構成員等の状況 (別紙に記載し、添付してください。)

3 <農地法第3条第2項第3号関係>

信託契約の内容 (信託の引受けにより権利が取得される場合のみ記載)

--

4 <農地法第3条第2項第1号及び第4号関係> (権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載)
権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況

(「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。)

(1) 農作業に従事する者

	氏名	年齢	権利取得者との続柄	職業	農作業従事日数	農作業経験の状況	通作距離・時間
権利取得者	大城 一郎	45	本人	農業	200日	農作業5年	20km・40分
世帯員等その他常時雇用(構成員)	大城 〇〇	43	妻	会社員	0日	なし	20km・40分
	大城 〇〇	19	子	学生	30日	なし	20km・40分
	大城 〇〇	70	父	農業	150日	農作業20年	5km・15分
							km・分
							km・分
	現在: 4名・増員予定: 0名 (農作業経験の状況:)						
臨時雇用	年間延日数 30日						
	年間延人数 現在: 0名 (農作業経験の状況:)						
	増員予定: 2名 (農作業経験の状況: 未経験者)						

(2) その者の農作業への従事状況 (該当する期間(実績又は見込み)を「←→」で示してください。)

(「農作業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業(耕うん、播種、施肥、刈取り等)にいつでも従事できる状態にあることをいいます。)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間	←→											
その者が農作業に常時従事する期間	←→											

(記載要領)

- 1 農作業経験等の状況の記入例 農作業暦〇〇年、農業技術修学暦〇〇年
- 2 通作距離及び距離は、住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間を記載して下さい。

5 <農地法第3条第2項第7号関係>

周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

(例えば、集落営農や経営体への集積等の取組への支障、農薬の使用法の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。)

営農計画はハウス栽培によるマンゴーで、周辺農地ではさとうきびや花卉の営農が行われている状況である。申請地が一団の農地の端地にあること等から、周辺農地の総合的な利用の確保に支障は生じないと考える。
万が一支障が生じた場合は、地域の農家、農業委員会及び県中部農業改良普及センター等の意見を参考に責任をもって対処します。

6 その他参考となるべき事項

父とは、別世帯ではありますが、農業経営を一体として行っております。
譲受人と譲渡人の関係(親子等)や、別世帯で農業経営を共にしている者がいれば、その旨記入する。